

## 年間第26主日

皆さん、今日の福音書は「金持ちとラザロ」のたとえ話ですね。当時、金持ちは、人々から尊敬に値する人物であると認められていました。金持ちは贅沢な暮らしをしていて、毎日、友人を招いて宴会を開いていたようです。

一方、ラザロという貧しい人がいます。彼は金持ちの食卓から落ちた残飯を食べたいと切望していた「ものごい」でした。

ある日、この二人が亡くなりました。その後ラザロは天国に行き、金持ちは地獄に行きました。ここで、皆さんも質問したいことはありませんか。なぜラザロは天国に行って、金持ちは地獄に行ったのだろうか？ 金持ちはどのような罪を犯していたのだろうか？

今日の福音でイエス様は、富を持つことは悪いことであり、罪であるとは教えていません。なぜなら神様がこの富を創造されたからです。この富を持つことは良いことなのです。それで、もし私たちがたくさんの富を持っているとしたら、それは神が私たちを祝福してくれているからだと考えます。しかし、そうではありません。神様はとても慈悲深く、富を与えてくださるのですが、それは富んでいる人が、貧しい人々の状況を少しでも改善するためにその富を使うことを期待しておられるからです。つまり、豊かな富を持っている人々が富を他の人のために使うことを信頼しておられるのです。

それでは今日の福音の金持ちの罪は何でしょうか。彼はラザロを自分の家の門から追い出すように部下に命じたわけでもありません。また、食卓から落ちた残飯を彼が受け取ることを禁じたわけでもありません。金持ちはラザロを追い出してもいないし、残酷なこともしませんでした。それでは何が金持ちの罪なのでしょう。実は、金持ちの罪は、ラザロの存在を知らながら、**無関心**であったことなのです。ラザロは、金持ちの周りにいつもいる貧しい人、病気の人、不幸な人の代表でありました。そのラザロの存在を知らながらも何もしなかったことが罪なのです。罪は、悪いことをすることだけではありません。罪とは、関心をもたないこと、良いことをしないことです。金持ちの罪とは、自分がしなければならないことをしなかったことです。それをカトリック教会では、「**不作為の罪**」、あるいは「**やるべきことをやらないことの罪**」と教えられます。

金持ちの罪は、困っている隣人に対して、自分がすべきことを怠り、貧しい状態を少しでもよくしようとしなかったことです。

私たちは、罪と聞くと、あまりにも簡単に、自分は何も悪いことをしていないと主張していないでしょうか。そう主張することで、不作為の罪を許してしまいます。

現代、私たちの社会や世界には、多くのラザロがひとびとの無関心の中にいるのです。時々、私たちはラザロが私たちの人生に存在していることに気づきます。しかし、多くの場合、私たちは彼らを見捨てていないでしょうか。神様が私たちにくださっている愛と恵みを分かち合うことを怠っていないでしょうか。

もし、私たちがラザロのような人を助けるために手を貸さないなら、金持ちの罪は私たちの罪でもあるのです。私たちが手を貸す必要のある人々は、物質的に貧しい人たちだけでなく、精神的に貧しい状態に置かれている人々に手を差し伸べる必要もあります。

かつて聖マザー・テレサはこう言いました。「貧しい人は食べ物ではなく、愛が与えられるのを待っています。彼らがホームレスなのは家がないからではなく、人々から無視され、拒絶されているからです」。

今日、私はマイケル・ジャクソンの「Heal The World」という有名な歌を歌って今日の話締めくくりたいと思います。この歌は次のような歌詞です。

「世界を癒して  
より良い世界にしていこう  
君にも僕にも、人類みんなにとってね  
死にかけている人々もいるんだ  
君が生命にちゃんと思いやりをもてば  
君にも僕にもより良い世界になる」  
Heal the world, Make it a better place。  
For you and for me and the entire human race  
There are people dying  
If you care enough for the living  
Make a better place for you and for me 。

神様に、私たちの不作為の罪を許してくださるよう祈りましょう。そして、私たちが愛の働きをすることができるようにお導きくださいと、祈りましょう。